



法問寺開創四五〇年

今年、平成二十一年は法問寺が創建されて四五〇年目の年にあたります。一五五九年（永禄二年）に中島種広創立、穩蓮社安譽虎角上人開山、当初は現在地より約百坪ほど東南にあつたが、享保一四一年（一七二九）幕府勘定吟味役井沢惣兵衛の中川開削のために現在地に移つたと伝えられております。当時の寺周辺は葦の生えるような川の様相で草庵のような寺が作られたのではないのでしょうか。ちなみに創建の翌年、永禄三年は織田信長が桶狭間の戦いで今川義元を破つた時です。時代は室町時代、世はまさに戦国時代と言われる頃です。現在放送中の大河ドラマ「天地人」の主人公「直江兼続」も永禄三年に生まれています。大河ドラマの時代背景にはすでに法問寺があつたのです。そう想うと時代の流れがよくつかめます。開創四五〇年については偶然他の事を調べている時に気づきました、今年の四月の僧正叙任、本堂の

壁紙張り替え、釈迦三尊仏安置、雲上二十五菩薩のご奉納、蓮の花の設置など気づいてみればすべて四五〇年に記念されて、阿弥陀様に仕事を与えて頂いたような気がします。五〇年後の開創五〇〇年（二〇五九年）の時には私たちは既に極楽からみていることになるでしょうか。次世代の方々にも是非伝えていきたいと感じております。

◇雲上二十五菩薩安置完了

今年の春から皆さんにお知らせしておりました、「雲上二十五菩薩像」が、予定より遅れつつも、八月

上旬に観音・勢至二菩薩を除く二十三体が揃い、八月九日には、奉納者の方々の参列を頂き、法問寺本堂において、開眼式法要を致しました。本堂も、今年になって、堂内の壁紙もきれいに



なり、まさに、雲上菩薩様達があがるのを、待っている感じ……。しかし、コンクリートの壁に、どのような方法で、取り付けるか！？など、色々と考えた末、業者に頼まず、自分達で、やってみよう！ということになり、八月のお盆の週、住職とふたり、本堂に缶詰になり、住職は、取り付け方法に知恵を絞る、私は、二十三世の菩薩様を、動きのある、流れを感じられるような配置にするには？など考え、菩薩像の取り付け作業に取り組みました。ご覧のとおり、本堂は、工事現場さながら……。ドルルの音は、耳をしっかりとふさがないと大変！住職は脚立のてっぺんに上っての作業でした。取り付け用具調達やら、名札書きやら、準備から取り付け完了まで約一週間余りでしたが、順々に上がっ



ていく菩薩様達を見ながらの作業は、なかなか楽しいものでした。そして、何より、本堂の周りほとんどに上がった菩薩様達に囲まれている本堂内は、正面の阿弥陀様、背後のお釈迦様、そして、ぐるりを菩薩様から見守られ、今までよりももっともつと、とても落ち着ける、安心してた心持になれる本堂になった……。と、感じることです。これから、お檀家の皆さんも、お彼岸、お十夜、そして、ご法事などのおり、本堂にお上がり頂く機会もあると思いますが、是非、ゆっくりと、ご覧になってください。そして、同じような落ちついた気持ちを感じて頂けたらと、思っております。



法問寺花だより

今回の花だよりは、蓮の花特集です。

今年の春、新しく六鉢の蓮の鉢を作りました。いろいろ検索して、やっと見つけたのは、京都の蓮屋さん。二月に予約をして、三月下旬に真空パックの蓮根が、届きました。蓮を植え込むには田土という、超粘土質の土を使うんですが、これが曲者！

植え込みをするのに、土をこねて、その中に蓮根を植え込むのですが、まあ、力が要ること！翌日は腰痛、腕の筋肉痛、おまけに指は関節痛になりました（苦笑）。

こんな強固な粘土質の土から、ちゃんと芽が出られるのか！

と、心配するほどでしたので、初めての芽を見つけたときはほっとしました。七月にはいと、葉の勢いもよく、もう気持ちには、ひたすら「つぼみ」が出るのを待っていました。今年の夏の異常気象でちっとも出てくる気配がなく、また、せつ

かくでたのに、つぼみのまま枯れたり、と、随分気をもみました。しかし、七月のお盆には、間に合わなかったものの、七月十八日に初開花！をしてから、今、この原稿を書いている九月初めまで長いこと、次々と開花して、楽しませてくれました。蓮の花は、わずか三日ほどの命。しかも朝早くに開き、午後にはまたすぼみます。ので、朝も早い時間から、大撮影会を随分しました。それでもタイミングのいい檀家さんには、法問寺の蓮を見ていただけました。

四種類の蓮が合わせて二十もの花を咲かせました。ほんの一部ですが、この花だよりで紹介します。また、ご希望の方がいらつしやいましたら、寺にいらしたとき、お声をかけてください！色々な写真をお見せしたいです！



八 間



西安紅蓮



茶碗蓮(八重)



孫夫人

今年咲いた蓮の花



西安紅蓮



茶碗蓮(八重)

◆法然上人八百年遠忌記念

五重相伝会入行のおすすめ

明年、平成二十二年五月の連休中浄土宗で一番重要とされる五重相伝会（ごじゅうそつでんえ）が開かれます。浄土宗の奥儀を檀信徒に伝える大切な行事で、ここ数年来ひらかれておりませんでした。法然上人八百年遠忌を記念して開催されるものです。五月の連休中四日間休まず受講していただきますが、修了した方には生前の戒名が授与され、本当の意味での浄土宗の檀信徒となることができます。正式な戒名を頂けるとも重要な行事です。東京教区北部組（法問寺が所属する寺院組織）では各寺院より五名ほどの選ばれた檀信徒の方だけが参加できます。興味のある方、参加してみたい方は法問寺にお問い合わせてください。住職が実行責任者になつていきます。